

WEEKLY BULLETIN

2022-23

Rotary Club of Mino-o



国際ロータリー 第2660地区 箕面ロータリークラブ

Happy New Year
2023

例会場 箕面観光ホテル 例会日 毎週木曜日 18:30~
事務局 〒562-0006 大阪府箕面市温泉町1-1 (箕面観光ホテル内) Tel:072-724-2781 Fax:072-724-1786
Email : mino-orc@abeam.ocn.ne.jp HP : <http://mino-orc.net/>

会長 芝野 弘三郎 幹事 木村 知也 広報委員長 上島 一彦



国際ロータリー会長 ジェニファー E. ジョーンズ
国際ロータリー第2660地区ガバナー 宮里 唯子

想像してください、私たちがベストを尽くせる世界を
私たちは毎朝目覚めるとき、その世界に変化をもたらせると知っています

NO.2538

2023年1月26日発行

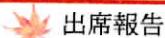
●今週の例会プログラム

2023年1月26日(木) 第2545回例会
卓話 山下正和会員・今野翔太会員



【箕面観光ホテル】

◆前回例会◆



出席報告
2022年1月19日(木) 第2544回例会
会員数 34名 出席者 19名 (出席率 61.29%)

◆会長挨拶◆

芝野 弘三郎

今日は職業奉仕月間です。ガバナー月信では、職業奉仕はロータリーの核心であり、世界中の地域社会で奉仕を行う土台となるものと言われています。職業奉仕はロータリーの金看板と言われる所以です。本日の卓話で片山委員長が詳しく説明されると思いますので、お任せしたいと存じます。片山さん、よろしくお願ひします。

昨日は、職業奉仕セミナーとして、千房株式会社 中井政嗣代表取締役会長(大阪難波 RC 会員)の「～実践力～こんなことなら誰でもできる」が ZOOM ウェビナーで開催され、視聴された方も多いと思ったらと思いますが、いかがでしたか。後日、地区ウェブサイトに於いて YouTube で配信されるかと思いますが、その中で、印象に残った点をいくつかご紹介したいと思います。

・ロータリー(職業奉仕=ボランティア)という組織には 4 つの条件必要。

1. 汗をかけますか。例会や行事への参加。
2. お金を出せますか。会費はもちろん、ニコニコなどの奉仕金。
3. 知恵を出せますか。知識があっても、知恵、工夫をして実践して学んでいるか。
4. 人脈を提供できますか。人にお世話になることの大しさについて。

・小学生の職場体験学習について、トイレ掃除の大切さ。
・ゴミを拾うということについても熱弁されていました。
・会長挨拶は自分のために。継続することの重要性、難波 RC の林会長の会長挨拶が日に日に上達。これに比べて私の毎週の挨拶は上達していないのではないかと反省しています。
・飲食業が成功する条件として、味・値段・場所そして人、ひとりひとりが大事である。CHIBO の I、愛が中心である。
・お役所仕事の 7 つの罪として、1. 逃げる 2. 隠す 3. 遅い 4. 冷たい 5. 固い 6. 威張る 7. 無駄遣い を挙げ、その反対つまり、1. 逃げない 2. 隠さない 3. 早い 4. 暖かい 5. 柔らかい 6. 謙虚 7. 無駄遣いをしないことを強調。
・見つめる・うなづく・微笑む・褒めるのが聞き上手であり、話し上手に通じる。私もこれから実践したいと思います。
・そのほか、すぐにでも実践できる事柄をたくさん示してください、有意義なセミナーであり、仕事やロータリーに向き合う姿勢を正していただき、背筋がピンと伸びたような気がしました。
以上。

ロータリアンの義務として、会費の支払い、出席、ロータリーの友の購読の 3 つが挙げられますが、ガバナー月信を追加してもいいのではないでしょうか。

2022 年度版、手続要覧が手元に届きましたが、皆様もウェブサイトから見られますので一度目を通してください。

👉 ガバナー月信はこちらから 👈

[ガバナー月信 » 国際ロータリー第2660地区\(2022-2023年度\) \(ri2660.gr.jp\)](http://ri2660.gr.jp)

◆幹事報告◆

木村 知也

【1月の例会】 箕面観光ホテル

29日 卓話 山下会員、今野会員

【2月の例会】

- 2日 フォーラム 国際奉仕委員長 高橋会員
- 9日 ガバナー補佐訪問
- 16日 移動例会 千里阪急ホテル
- 23日 休会（祝日）

- ・1/21 拉致問題啓発舞台劇 観劇のお願い
- ・1/26 大阪梅田 RC より森様、細川様がロータリーデーPR でお越しになる件
- ・箕面市より「20歳のつどい」協賛の御礼

◆SAA報告◆

SAA 山本 貴雄

ニコニコ

片山秀樹会員：本日は職業奉仕について卓話を担当します。

よろしくお願ひいたします

前田建司会員：片山会員、卓話宜しくお願ひいたします

西脇 悟会員：遅くなりましたが、会員の皆様新年明けまして
おめでとうございます

芝野弘三郎会員：片山委員長、よろしくお願ひします

高橋太朗会員：本年もよろしくお願ひ申し上げます

山下正和会員：母親が生前大変お世話になりました。
ありがとうございました。河野優作会員、黄堂泰昌会員、尾崎夏樹会員、白坂昌子会員、
山本貴雄会員、山根ひとみ会員

米山獎学会

林たかみ会員、河野優作会員、黄堂泰昌会員、前田建司会員、
西脇 悟会員、尾崎夏樹会員、芝野弘三郎会員、白坂昌子会員
高橋太朗会員、山本貴雄会員、山根ひとみ会員

ロータリー財団

河野優作会員、木村知也会員、前田建司会員、西脇 悟会員、
尾崎夏樹会員、芝野弘三郎会員、白坂昌子会員、高橋太朗会員
山根ひとみ会員

ボリオ

尾崎夏樹会員、白坂昌子会員、高橋太朗会員、

恒久基金

前田建司会員、木村知也会員、尾崎夏樹会員、高橋太朗会員

◆委員会報告◆

- ・戦略計画委員長 前田会員→本日戦略計画委員会開催
- ・55周年実行委員長 浦会員→本日実行委員会開催

◆卓話◆

職業奉仕委員長 片山秀樹



ロータリーは奉仕の団体ですが、その中でも職業奉仕が基本であると言われております。今からお話をさせていただく内容は、聞いたことがある内容かと思います。しかし、それを他の人に語ることが出来るかどうかを自問してください。語れるくらいまで刷り込んでいくことで真のロータリアンになってきたことを実感できるのではないかと思います。私はロータリーに入会して10年程なのですが、まだまだ諸先輩のようには刷り込まれておりません。本日、職業奉仕を語るにあたって勉強させていただきました。ここに立つという事は自分の中のロータリーへの理解を深めることに繋がるのだと感じております。

皆さんにとってロータリーとは何でしょうか。皆さんはどういうロータリーと付き合っておられるのでしょうか。青先輩は「ロータリーは学校だ」と常に言われております。私は刺激を受けて自分を磨くところだと思っております。何せロータリーにきている方々は地元の名士であり、なにか強いものをお持ちであります。その様な方々と接する機会を持つことで刺激を受けます。また他の地区でマーケアップをすると、その地区での名士の方々が参加されておられます。このバッジをつけていることで、そこで学ぶチャンスを得るのです。

これから本題に入らせていただきます。ロータリーの職業奉仕、知っておきたい四大用語についてお話し致します。



第1(2つのモットー)

「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」と、
「超我の奉仕」

第2 ロータリーの樹

第3 「四つのテスト」

第4 「ロータリーは人づくり」

1. 2つのモットー

①最もよく奉仕する者、最も多く報いられる

これは、アーサー・フレデリック・シェルドンが、1910年の、全米ロータリー大会で表明した言葉です。

1905年、ポール・ハリスと数名で、発足したロータリークラブの目的や、存在理由について疑問を持つ人が現れました。そこでロータリーに、新しい理想を考え、それを明確にするために委員会が設置されました。そこで委員長に任命されたのがシェルドンです。シェルドンは悪徳と信用不安が横行し、消費者は、自分で自分を守るしかなかった当時にあっても、公明正大に、経営している商店や会社が大成功している事実を知って、その理由を探求しました。その結果「職業は、社会に奉仕する手段である」と提唱しました。1910年のシカゴ大会の閉会時に、シェルドンは次のように語ります。「19世紀の商習慣の特徴は競争です。出し抜かれる前に出し抜け!!」と語りました。

20世紀に入り、人類は賢くなりました。20世紀の特徴は協調です。人間は、英知の光に照らして正しい行為は報われる。職業は、人類の奉仕の科学である。「もっともよく奉仕をするもの、最も多く報いられる。」これが、現在も続いている職業奉仕の理念です。

②超我の奉仕

ベンジャミン・フランクリン・コリンズは、ミネアポリス RC の会長であった、1911年、ポートランドで行われた全米大会で次のように語りました。自分のクラブで採用し、厳守してきた原則は「サービス・ノット・セルフ(無私の精神)」であり、これによってクラブを組織し、新し

4つのテスト 言行はこれに照らしてから

1 真実かどうか 2 みんなに公平か 3 好意と友情を深めるか 4 みんなのためになるかどうか

い会員にも、この精神を学ばせるのが良いと語っています。この標語は、参加者の賛同を得ましたが、のちに、人はみな自己を尊(どうと)ばなければ、いけなし、自己を守らないといけない！それならば自己を否定する NOT より、自己を第二におく ABOVE のほうがよいのではないか、ということで「SERVICE ABOVE SELF」に修正されました。これら二つの標語が、公式の標語になったのは1950年デトロイト国際大会においてです。

この二つの標語のうち、「最もよく奉仕する者、最もよく報いられる」は、職業奉仕の理念を表すものであり、「超我の奉仕」は米山梅吉初代ガバナーが訳された「サービス第一、自己第二」の心掛けが事業成功の秘訣であることを示すと、ともに、社会奉仕、国際奉仕の人の道の奉仕の理念である！！と変化してゆきました。次に、決議23-34が、登場した時代背景として、1905年、職業人の親睦を軸にロータリーが発足しました。1910年代になって、実践を伴わないRCの理念に飽き足らず、クラブとして金銭的奉仕や身体的奉仕の実践を、積極的に行うべきである、という動きが顕著になってきました。これが実践派と理念派との対立に発展してゆきます。そこで、国際ロータリー理事会は、分裂の危機を乗り越えるため1923年セントルイスの国際大会で決議23-34の採択によって、論争に終止符が打たれ、両派の対決は解消しました。これは、他人のことを思いやり、他人のために尽くそう、という奉仕活動の根本原理を、明確に定義しています。結論として、決議23-34第1条は、ロータリーの奉仕理念を確定した唯一のドキュメントとして重要です。



「ロータリーは基本的には、一つの人生哲学であり、それは、利己的な欲求と義務及び、これに伴う他人のために奉仕したい!! と言う、感情との間に、常に、存在する矛盾を和らげようとするものであります。この哲学は「超我の奉仕」の、哲学であり、「最もよくするもの、最も報いられる」という実践理論の、原則に基づくものである。と、うたっています。

二つのモットーを一つの主張として捉えると、サービスを自己の利益や都合よりも、優先させよう。利益はサービスの結果である。相手のために最善のサービスをすれば、結果として最大の金銭的利益と、大きな精神的な満足が得られる、ということです。決議23-34第6条では、ロータリーの奉仕活動の実践は、個人奉仕が原則であること。クラブが行う奉仕活動は、会員の訓練のための例示であると明記されております。これによって奉仕の実践は、個人奉仕か、団体奉仕かという、論争に終止符が打たれています。

2. rotaryの樹

2008年RI国際協議会において渡辺好政RI理事が、講演を行い、その際に提示された、ロータリーの樹・2008が2013年RI規定審議会で採択されました。

ロータリーの樹とは基本理念である、

THE IDEAL OF SERVICE(奉仕の理念)を実践する手段が、職業奉仕であることを、わかりやすくした図であります。

クラブ奉仕とは、例会出席のことであり、ロータリーの樹に、水と栄養を送る「根」であり、職業奉仕とは、その上に成長する「幹みき」であり「奉仕の理想」と並ぶものと、位置づけられています。青少年奉仕・社会奉仕・国際奉仕・米山奨学金・ロータリー財團に、基づく奉仕は枝が伸びて実った「果実」であると語っています。



例会出席を、基本中の基本とする、クラブ奉仕なくしてロータリークラブそのものの存在はありません。

ロータリーの樹(き)は幹(みき)ともいわれる 職業奉仕の理念の、成長なくして、果実とも いうべき、奉仕活動、青少年奉仕、社会奉仕、国際奉仕は一切ないといえます。

3. 四つのテスト



テイラーと四つのテスト、ロータリーの哲学を端的に表現し、職業奉仕の理念の実行に役立つものとして、四つのテストがございます。このテストは、シカゴのロータリアンであり、のちにロータリー創始50周年に国際ロータリー会長を務めたハーバードJ.テイラーが1932年の世界大恐慌の時に考えたもので、商取引の公正さを測る尺度として、多くのロータリアンに活用されてきました。ハーバードJ.テイラーは、大不況の中で、低迷している会社を再生させるには会社の中に同業者には無い何かを育成しなければなりませんでした。テイラーはその何か！！に、社員の人格と信頼性と奉仕の心を選んだそうです。

その育成の指針として会社の全従業員が、使えるような倫理上の尺度として作ったのが四つのテストです。四つのテストは簡単な言葉ですが、クラブ・アルミニウム社の苦境期の決定を下す基盤となり、また、クラブ・アルミニウム社の、従業員は四つのテストを暗記するよう求められ、四つのテストは、仕事のあらゆる面における指針ともなりました。RI理事会は1943年に正式に四つのテストを採択し、その版権は1954年、ハーバードJ.テイラーがRI会長の時に彼らRIに寄付されました。



四つのテスト、ロータリーの目的、職業宣言、五大奉仕の定義がロータリーの奉仕の理念とその実践を示すものであるのに対して、四つのテストは日常の商取引・産業活動におけるロータリアンの言行の自己評価の為のテスト形式の基準として、導入されました。

- ①真実かどうか
- ②みんなに公平か
- ③好意と友情を深めるか
- ④みんなのためになるか どうか



新入会員にロータリーを最初に説明するときに、四つのテストがよく使われるよう、このテストの邦訳には、ロータリーの精神が、ロータリアンのみならず一般の職業人にも理解できるような形で、簡潔かつ的確にまとめられています。ロータリークラブ、あるいはロータリアンが理念の実践を通して社会に対する真実の灯となり、重要な規準となると、いっても過言ではないです。

・ロータリーの哲学を端的に表現し、職業奉仕の理念の実行に役立つもの

・日常の商取引や、産業活動における、ロータリアンの言動の、自己評価のための、テスト形式の基準です。

①真実かどうか 「Is it the truth?」

「真実」とは、嘘偽りのない本当のこと、「事実」と同じか、違うのか？「事実」と「真実」の違い

4つのテスト 言行はこれに照らしてから

1 真実かどうか 2 みんなに公平か 3 好意と友情を深めるか 4 みんなのためになるかどうか

事実は、本当にあった事柄、現実に存在する事柄。また、真実は、嘘偽りのないこと、本当のことを意味します。意味は似ていますが、事実は、ひとつで、真実は複数あると言われるように、事実と真実は異なり、一致しないことの方が多いくらいである。たんなる事実かどうかではなく、物事の原理・原則・根本原理に適っているかどうか！！！と、言う事です。ロータリーの奉仕の精神、すなわち、ロータリーの真実の変遷にもそれが見られるように思います。

②みんなに公平か 「Is it fair to all concerned?」

「fair」は「公平」ではなく「公正」

公平は平等分配で公正は、その場の状況に応じて私的愛情をあまり交えずに偏りなく対処すること。

・「concerned」（コンサーンドゥ）は「四つのテスト」を。。。商取引に限りますが → すべての取引先、また、商取引以外の場でも使われる可能性を → みんな、、、です。

Fairとall concernedと言う、言葉の翻訳に問題があると思います。Fairは公平では無く公正と捉えた方が良いかも知れません。公平とは、平等分配を意味しますので、例えば、贈収賄で得たunfair(アンフェア)なお金でも平等に分ければそれで良いことになります。

オールコンサーンドゥはオールだけが訳されており、肝心のコンサーンドゥが省略されています。

四つのテストは「商取引」の基準として定めた文章なので、このコンサーンドゥは「取引先」のことを意味します。従ってこのフレーズは「すべての取引先に対して公正か」ということを意味しています。ロータリアンの日常生活のすべての言動に適用し、『みんなに公正に対処しているか！！』の方が、原文の意味を適切に伝えていると思います。

③好意と友情を深めるか 「Will it build goodwill and better friendship？」

goodwillは単なる好意や善意を表す言葉ではなく、商売上の信用や評判を表すと共に、店ののれんや取引先を表します。すなわち、その商取引が店の信用を高めると同時に、よりよい人間関係を築き上げて、取引先を増やすかどうかを問うものです。「信用を高め、取引先をふやすか」と訳すかと思います。

「好意と友情を深めるか」の判断で、私的な感情が強く入り過ぎないように、戒めているという解釈も出来るかと思います。いずれにしても、ロータリアンの言行は「この四つの問い合わせのすべてに『イエス』と答えられるものでなければ『ならない』」言うことです。「自分の考え方、意見、行いが他との好意・友情を一層密にするか」という問いかけであり、他の人々と付き合うときの、ごく自然で基本的な対処の仕方になります。

④みんなのためになるかどうか

「Will it be beneficial to all concerned？」の、beneficialは、四つのテストを商取引のみに関連するものと考えれば、「利益をもたらす」という形容詞になりますが、ここでは、もっと広い意味に考えて、「有益な」と訳すのがよいと思います。「beneficial」は、すべての取引先が適正な利潤を得るか、すべての取引先に利益をもたらすか！！また、もう少し広い意味に考え、「有益」かどうか、みんなのためになるかどうか

道徳的な基準は、自分が何かを行うときの他への態度の規範でありますが、それは当然、直接の相手だけでなく、その周辺の人達への配慮も含んでいかなければいけません。

これが「みんなのためになるかどうか」であると考えられます。

4. ロータリーは人づくり

ロータリーの人づくりに関しては、多くの先人たちが意味のある言葉を残しています。米山梅吉・初代ガバナーは、ロータリーの例会は人生の道場 人づくりの修練の場であるなど、言葉を残しています。

また、ビル・ロビンズ 国際ロータリー会長は、【ロータリーの第一の仕事は人を作ること！！】など、言葉を残しています。

次に、ロータリーの人づくりには、内なる人づくりと外なる人づくりがあります。

人づくりは、その対象がロータリアンであるか否かによって、「内なる人づくり」と「外なる人づくり」に分類することができます。内なる人づくり、すなわちロータリアンの人づくりとしては、新人研修に始まり、各種フォーラム、炉辯会議や、戦略委員会、各種の奉仕事業やロータリアンの研修会などをあげることができます。また、外なる人づくりは、ロータリアン以外に対する人づくりですが、米山獎学生や青少年交換学生なども、これに含めて考えることができそうです。

※ さまざまな職業奉仕活動を実践する際には、「ロータリーの職業奉仕と言えるためには」という視点が欠かせないでしょう。

最後に…ロータリーは人づくり

ロータリーは人づくりと考えていますが、人が人をつくることはできません。すべて各人(かくじん)が、自ら成長をしていく「自分づくり」が基本であり、ロータリーはその成長の後押しをする役目あります。「人づくりは自分づくりの支援の場」と、とらえ、ロータリーの発展に寄与することが必要です。



4つのテスト 言行はこれに照らしてから

- | | | | |
|----------|-----------|--------------|-----------------|
| 1 真実かどうか | 2 みんなに公平か | 3 好意と友情を深めるか | 4 みんなのためになるかどうか |
|----------|-----------|--------------|-----------------|